

# 支配欲求と暴力

デート暴力をもたらす要因の探索的検討

○荒井崇史<sup>1</sup>・金政祐司<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>東北大学大学院文学研究科・<sup>2</sup>追手門学院大学心理学部)

キーワード：デート暴力，支配欲求，愛着不安

Need for Control and violence: The exploratory study of the factors led to dating violence.

Takashi ARAI<sup>1</sup> and Yuji KANEMASA<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>Tohoku University & <sup>2</sup>Otemon Gakuin University)

Key Words: dating violence, need for control, attachment anxiety

## 問題と目的

近年，交際関係の綻れから凄惨な事件に至る事件が語られる。こうした未婚の交際関係にある二者間で反復的に行われる暴力をデート暴力(Dating Violence)という(荒井, 2016)。デート暴力研究は欧米では早くから行われてきたが，日本では限られている。そうした中で注目される要因は，支配欲求と愛着不安である(Davis, Ace, & Andra, 2000)。本研究ではこの点に注目し，日本でも加害者の支配欲求と愛着不安が暴力をもたらすのかを探索的に検討することを目的とした。

## 方法

**手続きと調査対象者**：Web 調査会社の保有するモニタから現在交際相手がいる 15～39 歳の男女を対象に調査を行った。具体的には，男女共に 10, 20, 30 代の各年代のサンプル数が均等になるように目標サンプル数(約 300 名)を決定した。その上でモニタに調査依頼を送信し，参加に同意を得られた場合に Web 上で回答を求めた。最終的に 1,551 名(男性 736 名，女性 815 名，平均 28.46±6.75 歳)を分析対象とした。

**調査内容**：Web 調査の調査内容は，以下の通りであった。(1) デート暴力：この半年間(交際を始めてから半年たっていない場合は交際を始めてから)の恋人に対する間接的暴力加害(相馬・具志堅・上田, 2007)の 6 項目に加え，島田(2017)を参考に身体的暴力 2 項目，心理的攻撃 1 項目，性的暴力 1 項目，経済的圧迫 1 項目の合計 11 項目を使用した(5 件法)。(2) 恋人支配欲求：濱口・藤原(2016)，濱口(2017)，柴橋(2004)から友人など他者一般への支配欲求を表すと考えられる項目を収集した。その上で，項目内容が恋人に対する支配欲求となるように文言を修正し，合計 10 項目を作成した(5 件法)。(3) 愛着不安：金政(2006)の恋愛に関する愛着スタイル尺度から愛着不安の項目を抜粋して使用した(18 項目，7 件法)。(4) その他：性別，年齢，職業など。なお，本調査では上記以外の変数も測定したが，本分析には使用しないため詳述はしない。

**調査時期**：2018 年 3 月 2 日～3 月 8 日

## 結果と考察

まず，本研究で作成した恋人支配欲求の一次元性を確認するために主成分分析を行った。その結果，第一主成分に対する負荷量はいずれの項目も .75 以上であり，寄与率は 66.05% であった。また，Cronbach の  $\alpha$  係数は .94 であり，恋人支配欲求の尺度の一次元性が確認されたと判断した。

次に，各変数の性差を検討するために  $t$  検定を行った。その結果，身体的暴力 ( $t(1376) = 3.50, p < .01$ )，心理的攻撃 ( $t(1383) = 3.13, p < .01$ )，性的暴力 ( $t(1135) = 6.62, p < .01$ )，経済的圧迫 ( $t(1218) = 5.15, p < .01$ ) で統計的に有意な差が見られ，いずれも女性よりも男性の方が多かった。また，愛着不安でも統計的に有意な差が見られ ( $t(1547) =$

2.13,  $p < .05$ )，男性よりも女性の方が愛着不安が強かった。

次に，各変数間の Pearson の積率相関係数を男女別に算出した。その結果，男女共に，恋人支配欲求並びに愛着不安と全ての暴力加害との間に統計的に有意な正の相関が見られた(男性  $r = .11 - .38$  ; 女性  $r = .07 - .36$ )。また，恋人支配欲求と愛着不安にも，男女共に 1%水準で統計的に有意な正の相関が見られた(男性  $r = .41$  ; 女性  $r = .36$ )。

最後に，Davis et al (2000) を参考に間接的暴力，身体的暴力，心理的攻撃，性的暴力，経済的圧迫を目的変数に，年齢，恋人支配欲求，愛着不安を説明変数とした重回帰分析を男女別に行った(Table 1)。その結果，間接的暴力，身体的暴力，心理的攻撃，性的暴力，経済的圧迫のいずれでも恋人支配欲求が促進的な影響を及ぼしていた。愛着不安については，女性の間接的暴力でのみ促進的な影響を及ぼしていた。以上から，男女ともに，個人的な資質としての愛着不安よりも，関係性において相手を支配したいという欲求が，暴力的な行為をもたらすと考えられる。なお，今後，関係性変数である支配欲求の媒介過程について検討する必要があるだろう。

Table 1 支配欲求と関係不安がデート暴力に及ぼす影響

		標準化偏回帰係数( $\beta$ )				
		$R^2$	F値	年齢	支配欲求	愛着不安
間接的暴力	男性	.17	48.99	-.12	.36	.07
	女性	.15	47.28	-.08	.33	.12
身体的暴力	男性	.10	29.37	-.11	.33	-.03
	女性	.07	22.27	-.05	.24	.07
心理的攻撃	男性	.10	28.70	-.10	.33	-.03
	女性	.10	32.25	-.06	.32	.02
性的暴力	男性	.08	22.56	-.09	.29	-.01
	女性	.02	6.72	-.07	.15	-.03
経済的圧迫	男性	.09	24.70	-.09	.31	-.02
	女性	.02	6.71	-.09	.14	-.01

\*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

## 引用文献

■荒井崇史(2016) 犯罪心理学辞典, 166-167. ■Davis, K., E., Ace, A., & Andra, M.(2000) *Violence and Victims*, 15, 407-425. ■濱口佳和(2017) 教育心理学研究, 65, 248-264. ■濱口佳和・藤原健志(2016) 教育心理学研究, 64, 59-75. ■金政祐司(2006) 社会心理学研究, 22, 139-154. ■柴橋祐子(2004) 教育心理学研究, 52, 12-23. ■島田貴仁(2017) 犯罪社会学研究, 42, 106-120. ■相馬敏彦・具志堅伸隆・上田真由美(2007) 日本社会心理学学会第 48 回大会.

(Takashi Arai & Yuji Kanemasa)